

日本分析化学会第74年会開催報告

1 はじめに

日本分析化学会第74年会は、2025年9月24日（水）～26日（金）の日程で北海道大学にて開催された。今年は、ASIANALYSIS XVII（実行委員長：小澤岳昌 東京大学教授）も同日に北海道大学で開催され、ポスター発表を両学会ともに体育館で実施し、活発なディスカッションが行われただけでなく、多くの参加者による国際交流も活発に行われた。

参加人数は1191名、講演件数は口頭発表216件、ポスター発表379件（一般ポスター135件、テクノレビューポスター6件、若手ポスター228件、高校生ポスター10件）、受賞講演12件、研究懇談会講演17件、シンポジウム講演29件（5つの特別シンポジウム（うち1つは公開シンポジウム）と1つの産業界シンポジウムの合計講演件数）であった。



工学部正面入口

2 講演

講演分類は、第72年会（熊本）、第73年会（名古屋）と同様に22分類とした（表1）。近年の傾向として、「原子スペクトル分析」、「センサー」、「環境分析」、「バイオ」の講演件数が多く、本年会においても同様の傾向であった。さらに本年会では、「材料分析」および「食品・医療・臨床」の講演件数も多かった。

口頭発表は、A～Jの10会場において、一般講演とシンポジウム講演が行われた。特別シンポジウムとして、

1) 環境工学で注目を浴びる分析化学、2) 先端分光・電気化学・バイオセンシングの新展開：ナノ・分子レベルの計測と制御、3) エクソソームと分析化学、4) 生体界面とバイオセンシング、5) 分析化学における信頼性確保のための取り組み（公開シンポジウム）の5件が開催された。これらのシンポジウムでは、環境問題や生命科学、信頼性評価など、社会的にも重要な課題の解決に向けた分析化学の役割と可能性が議論され、最先端の分析・センシング技術に関する発表が行われた。いずれのシンポジウムにおいても、活発な議論・討論が交わされ、今後の研究の方向性についても共有がなされた。また、初日の午後に開催された産業界シンポジウムでは、「分析化学におけるスマートラボ化」をテーマで、企業、国立研究機関、大学の研究者・技術者が講演し、

表1 講演分類と発表件数

分類		一般 口頭	一般 ポスター	若手 ポスター
1.	原子スペクトル分析	15	11(1*)	6
2.	分子スペクトル分析	7	2	7
3.	レーザー分光分析	3	1	6
4.	X線分析・電子分光分析	10	4	12
5.	放射線・磁場	0	0	2
6.	電気化学分析	11	3	12
7.	センサー	16	4	14
8.	質量分析	5	8(2*)	17
9.	マイクロ分析	7	1(2*)	5
10.	FIA	5	0	4
11.	LC	9	12	9
12.	抽出	5	4	7
13.	GC	2	3(1*)	0
14.	分離・分析試薬	6	6	10
15.	反応基礎論	12	1	1
16.	標準物質・データ処理	2	2	0
17.	界面分析	6	0	10
18.	微粒子分析	17	5	6
19.	環境分析	26	20	40
20.	材料分析	13	18	18
21.	食品・医療・臨床	12	29	19
22.	バイオ	27	1	23
計		216	135(6*)	228

* ()内はテクノレビューポスターの件数

** 高校生ポスターは講演分類がないため表には示していない

ラボラトリーオートメーションの現状と課題、今後の展望などが紹介された。近年、研究現場におけるデジタル化・自動化が急速に進む中で、スマートラボは分析化学分野でも重要なテーマとなっており、本シンポジウムではその最新動向や今後の方向性について活発な議論が行われた。加えて、15の研究懇談会では、それぞれの懇談会の研究に関係する講演が行われ、活発な議論が交わされた。

ポスター発表は、体育館を会場として行われ、企業展示およびASIANALYSISのポスター発表も同一会場で実施された。これらを一箇所に集約したことで、広い会場空間を活かした展示が可能となり、参加者の動線が効率化されたほか、産学・国際間の交流促進にも大きく貢献した。会場では研究内容に対する活発な意見交換が行われ、終始盛況のうちに進行した。厳正な審査の結果、26名に若手ポスター賞が授与された。本年会では、英国王立化学会（Royal Society of Chemistry）のスポンサーシップのもと、受賞者の中からAnalyst賞およびLab on a Chip賞が各1名、各ジャーナルのAssociate Editorにより選出された。また、高校生ポスターの講演者には全員に優秀講演賞を授与し、その中から1件を最優秀講演賞として表彰した。高校生による発表のレベルは年々向上しているように思われ、質疑応答においても専門的な質問に的確に回答するなど、非常に高い理解度がうかがわれた。学会参加を通じて、高校生が専門家から直接アドバイスを受けたり、自身の考えを述べたりすることは、科学への関心をさらに高める有意義な機会となっている。今後、より多くの高校生が参加できるよう、学会としても周知や環境整備を進めていくことが期待される。



（上）ポスター発表の様子 （下）企業展示の様子

3 授賞式・受賞講演

学会賞を除く各賞の受賞講演は、関連する研究分野に近い講演分類の会場において行われた。各賞の受賞者は次の通りである。技術功績賞：辻田明氏、奨励賞：石井千晴氏、金尾英佑氏、眞塩麻彩実氏、横山悠子氏、先端分析技術賞：松田和大氏、森川悟氏、森川剛氏、柳田顕郎氏、松下美由紀氏、蛭田多美氏、富岡勝氏、福田真人氏、女性Analyst賞：高野恵里氏、高橋幸奈氏。

二日目の午後には、北海道大学工学部日本製鉄オープンホールにおいて、名誉会員推薦式・授賞式および学会賞受賞講演が行われた。授賞式に先立ち、加納健司氏と渋川雅美氏に名誉会員の推薦が行われた。上記の奨励賞、先端分析技術賞、女性Analyst賞の受賞者に加え、学会賞：川崎英也氏、長谷川浩氏、前田耕治氏、「分析化学」論文賞：石井千晴氏ほか6名、柳澤華代氏ほか3名、有功賞：46名に各賞が授与された。授賞式後には、3名の学会賞受賞者による講演が行われた。いずれの講演も、自身の研究の経緯や背景から現在の研究内容、さらには今後の展望に至るまでをわかりやすく説明され、学会賞にふさわしい充実した内容であった。



授賞式（有功賞）の様子

4 ものづくり技術交流会、ランチョンセミナー

二日目の9:30~14:00に、分析イノベーション交流会実行委員会主催（特別実行委員長：石田晃彦氏）による「ものづくり技術交流会 2025 in 北海道」が、北海道大学工学部アカデミックラウンジ3（T会場）で開催された。本交流会では、北海道の企業や大学を中心に、ものづくりや試薬・材料などの開発を展開している企業の協力を得て、展示交流会およびレクチャー講演が行われた。多数の参加者が来場し、盛況であった。

ランチョンセミナーは、初日と二日目にそれぞれ2件、計4件が実施された。また、日本分析化学会女性研究者ネットワーク・日本分析化学会第74年会実行委員会主催（世話人：保倉明子氏）による「みんなのキャリアデザイン交流会」が、(株)島津製作所のスポンサーシップにより初日に開催された。例年同様、ランチョンセミナーはいずれも盛況であった。

5 懇親会

二日目の夕方(18:00~)に札幌グランドホテル本館2階(金枝)にて懇親会を開催した。懇親会は南尚嗣氏の司会で進行され、実行委員長の挨拶に続き、来賓として北海道大学総長 寶金清博氏および日本分析機器工業会副会長 飯泉謙氏からご挨拶をいただいた。その後、日本分析化学会会長の山本博之氏の乾杯により、懇親会が開始された。会場では、北海道の食材を用いた料理や北海道大学ワイン、北海道産ウイスキーなども提供され、参加者同士の交流が和やかに行われた。会食の半ばでは、2026年度開催予定の第86回分析化学討論会の実行委員長である佐賀大学の高椋利幸氏および日本分析化学会第75年会の実行委員長である東北大学の壺岐伸彦氏から、それぞれの学会の案内があった。主催者側では、参加者が北海道の料理を十分に楽しめるよう、食事



懇親会の様子

は十分に準備したつもりであったが、料理が好評であったためか、思いのほか早くなくなった。追加の料理をホテルに依頼したが、材料が準備できず、参加者に提供できなかったのは残念であった。一方で、料理が好評であったことは、参加者に喜ばれたこととして、主催者側にとっても喜ばしい結果であった。最後に、北海道支部長の坂入正敏氏の閉会の挨拶により、盛会のうちに終了した。

6 おわりに

本年会は、ASIANALYSIS XVII と同時開催であったこともあり、準備段階から実行委員の先生方、特に北海道大学所属の実行委員の先生方(谷博文(総務)、上野貢生(会計)、佐藤久(会場:工学部)、石田晃彦(会場:体育館)、山田幸司(プログラム))の協力がなければ、円滑に運営することは困難であった。また、ASIANALYSIS 実行委員長の小澤岳昌先生をはじめ、合同開催にご尽力いただいた関係各位に深く感謝申し上げます。さらに、Confit 小委員会の津越敬寿氏、平山直紀氏、学術会合協議会担当理事の手嶋紀雄氏、日本分析化学会事務局の高島章子さんには多大なご協力をいただいた。加えて、企業展示、ランチョンセミナー、広告などご協力いただいた企業の皆さま、運営を支えてくれた学生アルバイトの皆さん、そして参加くださったすべての皆さまに、実行委員会を代表して心より御礼申し上げます。

[北海道大学大学院工学研究院 渡慶次 学]

原稿募集

ロータリー欄の原稿を募集しています

内容

談話室：分析化学、分析方法・技術、本会事業(会誌、各種会合など)に関する提案、意見、質問などを自由な立場で記述したもの。

インフォメーション：支部関係行事、研究懇談会、国際会議、分析化学に関連する各種会合の報告、分析化学に関するニュースなどを簡潔にまとめたもの。

掲示板：分析化学に関連する他学協会、国公立機関の主催する講習会、シンポジウムなどの予告・お知らせを要約したもの。

執筆上の注意

1) 原稿量は1200~2400字(但し、掲示板は400

字)とします。2) 図・文献は、原則として使用しないでください。3) 表は、必要最小限にとどめてください。4) インフォメーションは要点のみを記述してください。5) 談話室は、自由投稿欄ですので、積極的発言を大いに歓迎します。

◇採用の可否は編集委員会にご一任ください。原稿の送付および問い合わせは下記へお願いします。

〒141-0031 東京都品川区西五反田1-26-2

五反田サンハイツ 304号

(公社)日本分析化学会「ぶんせき」編集委員会

[E-mail: bunseki@jsac.or.jp]